

# 環 境 年 報

令和元年度（2019年度）のまとめ

我 孫 子 市

## 我孫子市民憲章

わたくしたちは、利根川と手賀沼にかこまれ自然と歴史にはぐくまれた我孫子の市民です。

わたくしたちは、田園教育文化都市をめざす市民としての誇りをもち、明日への願いをこめて、ここに市民憲章を定めます。

- 水と緑と土のにおいがいっぱいの 住みよいあびこにします
- 心と体をきたえ 生き生きと働き 伸びゆくあびこにします
- 老人を大切にし 子どもの夢を育て 幸せなあびこにします
- ふるさとを愛し 文化を高め 豊かなあびこにします
- みんなで話しあい きまりを守り 明るいあびこにします

昭和56年1月15日制定

## 市の花 ツツジ

サクラとともに親しまれ暑さ寒さに強いことから、伸びゆく我孫子市のシンボルとして、市制施行を記念し昭和45年7月1日に指定されました。

## 市の木 ケヤキ

空に向かってそびえ、伸びる木の姿は、我孫子市の将来をイメージするものとして、市制施行を記念し昭和45年7月1日に指定されました。

## 市の鳥 オオバン

手賀沼で最も数が多く、一年中見ることができることから、市を代表する鳥として、昭和63年12月1日に指定されました。

## はじめに



本市では平成13年（2001年）に、環境保全に関する長期的な目標と施策の方向性を明確にした「我孫子市環境基本計画」を策定し、環境への負荷削減、手賀沼の浄化や自然環境の再生に取り組んでいます。

地球温暖化対策について、令和2年（2020年）7月、温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロにすることを目指すゼロカーボンシティ宣言を表明しました。令和5年度（2023年度）から始まる次期環境基本計画では、ゼロカーボンシティの実現に向け、目標数値や取組みを位置づけていきます。

また、市の事務事業に伴う温室効果ガス排出量の削減を主な目的とする「あびこエコ・プロジェクト4」では、令和元年度（2019年度）の温室効果ガス排出量を基準年の平成26年度（2014年度）と比較したところ、1.5%増という結果になりました。目標である令和2年（2020年）に4%減の達成は厳しい状況ですが、令和3年度（2021年度）からスタートする「あびこエコ・プロジェクト5」では、一層の温室効果ガス排出量の削減・環境負荷の低減を推進していきます。

手賀沼は、昭和49年（1974年）から平成12年（2000年）までの27年間、日本一汚濁が進んだ湖沼という不名誉な記録が続きました。その間、市民の皆さまをはじめ、国や千葉県、流域市が連携して長年様々な水質保全・浄化対策を実施してきた結果、水質は改善されつつあり、今では、手賀沼沿いの遊歩道を利用する方々や手賀沼を利用したイベントが年々増えています。

しかしながら、環境省の令和元年度（2019年度）の水質測定では、年平均COD値が1リットル当たり8.9ミリグラムで、全国ワースト3位という結果でした。これからも、さらなる水質改善を目指し、環境基準であるCOD値1リットル当たり5ミリグラム以下を目標に、千葉県に対し、湖沼水質保全計画に基づく浄化対策の確実な推進や汚濁メカニズムの解明などの取り組みを強く求めていくとともに、引き続き市民や事業者への啓発に努めてまいります。

令和2年（2020年）は我孫子市市制施行50周年となる記念の年でした。新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、地域の活力を失わせないためにも、記念式典や山下清展をはじめとする記念事業に取り組み、感染拡大防止と地域社会、経済活動を両立しながら進めてまいりました。新しい生活様式が浸透していく中で、今後も必要な対策を講じながら、市のシンボルである手賀沼を活かした多彩な事業を展開し、平穏かつ賑わいのある暮らしを取り戻していきます。

手賀沼が再び美しさを取り戻し、我孫子の豊かな自然環境を未来の子ども達に伝えていけるよう、これからも市民の皆さまと力を合わせ、様々な取り組みを進めていきたいと考えています。

本書は、令和元年度（2019年度）における我孫子市の環境の現状と施策をまとめたものです。本書が市の環境についての認識を深めていただくための一助となれば幸いです。

令和3年3月

我孫子市長 星野 順一郎